



## **Cisco Unity Connection Serviceability アドミニ ストレーション ガイド**

リリース 10.x  
2013 年 11 月

**Cisco Systems, Inc.**  
[www.cisco.com](http://www.cisco.com)

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。  
各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト  
([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)) をご覧ください。

Text Part Number:

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。  
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

*Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド*

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに iii

対象読者および使用 iii

表記法 iv

関連資料 iv

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート v

シスコ製品のセキュリティ v

---

CHAPTER 1

**バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability の概要 1-1**

バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability について 1-1

バージョン 10.x 用の管理者ワークステーション上でのブラウザの設定 1-2

Firefox 1-2

Microsoft Internet Explorer 1-3

バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス 1-4

バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用 1-4

---

CHAPTER 2

**バージョン 10.x のアラームの使用方法 2-1**

バージョン 10.x のアラームについて 2-1

バージョン 10.x のアラーム定義 2-1

バージョン 10.x のアラーム定義の表示 2-2

バージョン 10.x のアラーム設定 2-2

---

CHAPTER 3

**バージョン 10.x のトレースの使用方法 3-1**

バージョン 10.x のトレースについて 3-1

バージョン 10.x のトレース ログ ファイルの設定 3-2

バージョン 10.x のマイクロ トレースの有効化 3-2

バージョン 10.x で使用可能なマイクロ トレース 3-3

バージョン 10.x のマクロ トレースの有効化 3-10

バージョン 10.x で使用可能なマクロ トレース 3-11

## CHAPTER 4

**Cisco Unity Connection 10.x クラスタ内のサーバステータスとポートの管理 4-1**

## CHAPTER 5

**Cisco Unity Connection 10.x サービスの管理 5-1**

バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス 5-1

バージョン 10.x の Control Center でのサービス管理 5-4

## CHAPTER 6

**バージョン 10.x のレポートの使用方法 6-1**

バージョン 10.x のレポートについて 6-1

バージョン 10.x のレポート設定パラメータの設定 6-5

バージョン 10.x のレポートの生成と表示 6-5

## CHAPTER 7

**バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールの使用方法 7-1**

バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールについて 7-1

バージョン 10.x での Unity Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定 7-2

バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーションステータス情報の表示 7-3

## CHAPTER 8

**HTTPS ネットワーキング 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールの使用方法 8-1**

HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツールの理解 8-1

HTTPS ネットワーク上の他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定 8-2

バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーションステータス情報の表示 8-3

## INDEX



## はじめに

---

ここでは、次の項について説明します。

- 「対象読者および使用」(P.iii)
- 「表記法」(P.iv)
- 「関連資料」(P.iv)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」(P.v)
- 「シスコ製品のセキュリティ」(P.v)

## 対象読者および使用

『*Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド*』では、Cisco Unity Connection Serviceability を通して、アラーム、トレース、クラスタ、およびサービスを設定する手順について説明します。Cisco Unity Connection または Cisco Unified Communications Manager Business Edition システムを設定、トラブルシューティング、およびサポートする管理者を対象としています。IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。



### ヒント

Cisco Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の両方でサービスアビリティ関連タスクを実行します。たとえば、問題を解決するには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability は、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』に記載された機能をサポートしています。Cisco Unity Connection Serviceability に固有のタスクについては、このマニュアル『*Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

# 表記法

表 1 『Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド』の表記法

表記法	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>キーおよびボタン名。(例：[OK] を選択します)。</li><li>ユーザが入力する情報。(例：[ユーザ名 (User Name)] ボックスに <b>Administrator</b> と入力します)。</li></ul>
<> (山カッコ)	ユーザが値を指定するパラメータを囲むために使用します。(例：ブラウザで、 <a href="https://&lt;Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス&gt;/cuadmin">https://&lt;Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス&gt;/cuadmin</a> に移動します)。
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します。(例：Ctrl-Alt-Delete を押します)。
> (右向きの山カッコ)	Cisco Unity Connection Administration のナビゲーション バーで選択する順序を表します。(例：Cisco Unity Connection Administration で、[連絡先 (Contacts)] > [システム連絡先 (System Contacts)] に移動します)。

『Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド』では、次の表記法も使用しません。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されていません。

## 関連資料

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するマニュアルの説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection*』Release 10.x を参照してください。このマニュアルは Cisco Unity Connection に同梱されており、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/roadmap/10xcucdg.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/roadmap/10xcucdg.html)

Cisco.com 上の Cisco Unified Communications Manager Business Edition に関するドキュメントの説明と URL については、『*Cisco Unified Communications Manager Business Edition Documentation Guide*』を参照してください。このマニュアルは Cisco Unified CMBE に同梱されており、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/products\\_documentation\\_roadmaps\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/products_documentation_roadmaps_list.html)

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

## シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

[http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear\\_data.html](http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html)







# バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability の概要

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability に関する基本情報を提供します。この章の構成は次のとおりです。

- 「バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability について」 (P.1-1)
- 「バージョン 10.x 用の管理者ワークステーション上でのブラウザの設定」 (P.1-2)
- 「バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス」 (P.1-4)
- 「バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用」 (P.1-4)

## バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability について

Cisco Unity Connection Serviceability は、Cisco Unity Connection 用の Web ベースのトラブルシューティング ツールで、次の機能があります。

- トラブルシューティングに使用できる Connection アラーム定義を表示する。
- Connection トレースを有効にする。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でトレース情報を収集し、表示する。
- Connection トレース情報を保存するログの設定。
- クラスタとサーバの管理 (Connection クラスタが設定されている場合)。



**(注)** Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition 10 の使用ではサポートされていません。

- Connection 機能サービスのステータスを表示する。
- Connection サービスをアクティブ化、非アクティブ化、開始、および停止する。
- さまざまなファイル形式で表示できるレポートを生成する。

含まれているサービスとコンポーネントによっては、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスアビリティ関連タスクを実行できます。たとえば、問題をトラブルシューティングするために、両方のアプリケーションでサービスの開始と停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要になることがあります。

Cisco Unity Connection Serviceability は『*Cisco Unity Connection Serviceability* アドミニストレーションガイド』に記載されている機能をサポートします。Cisco Unified Serviceability の使用方法については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。



(注)

Cisco Unity Connection 8.6(1) 以降では、Cisco Unified Serviceability でシングルサインオン機能がイネーブルになります。詳細については、『*Security Guide for Cisco Unity Connection 10.x*』の「Single Sign-On in Cisco Unity Connection」の章を参照してください。このドキュメントは [http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/security/guide/10xcucsec061.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/security/guide/10xcucsec061.html) から入手できます。

## バージョン 10.x 用の管理者ワークステーション上でのブラウザの設定

Connection または Cisco Unified CMBE サーバ上で Cisco Unity Connection Serviceability、Cisco Unity Connection Administration、Cisco Unified Serviceability、Disaster Recovery System、およびその他の Web アプリケーションにアクセスするには、管理者ワークステーションでブラウザを正しくセットアップする必要があります。

コンピュータにインストールされているブラウザに応じて、次の該当する項を参照してください。

- 「Firefox」(P.1-2)
- 「Microsoft Internet Explorer」(P.1-3)

### Firefox

Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Firefox をセットアップするには、次のタスクを実行します。

1. 正しいブラウザの設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。次の該当する要件ドキュメントの「Software Requirements—Administrator Workstations」の項を参照してください。
  - 『*System Requirements for Cisco Unity Connection*』(Release 10.x)。次の URL にあります。  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/requirements/10xcucsysreqs.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/requirements/10xcucsysreqs.html)
  - 『*System Requirements for Cisco Unity Connection*』(Cisco Unified CMBE リリース 10.x)。このドキュメントは、  
[www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/requirements/10xcucmbesysreqs.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/requirements/10xcucmbesysreqs.html) から入手可能です。
2. 次に示すように Firefox を設定します。
  - a. Java を有効にします。
  - b. JavaScript を有効にして、[詳細設定 (Advanced)] で [イメージの変更 (Change Images)] を有効にします。
  - c. サイトでのクッキーの設定を許可します。(セキュリティ上の理由から、送信元 Web サイトのクッキーだけを保存することを推奨します)。

## Microsoft Internet Explorer

Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Internet Explorer をセットアップするには、次のタスクを実行します。

1. 正しいブラウザの設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。次の該当する要件ドキュメントの「Software Requirements—Administrator Workstations」の項を参照してください。
  - 『*System Requirements for Cisco Unity Connection*』 (Release 10.x)。次の URL にあります。  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/requirements/10xcucsysreqs.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/requirements/10xcucsysreqs.html)
  - 『*System Requirements for Cisco Unity Connection*』 (Cisco Unified CMBE リリース 10.x)。このドキュメントは、  
[www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/requirements/10xcucmbesysreqs.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/requirements/10xcucmbesysreqs.html) から入手可能です。
2. 次に示すように Internet Explorer を設定します。
  - a. アクティブ スクリプトを有効にします。
  - b. ActiveX コントロールをダウンロードして実行します。
  - c. Java スクリプトを有効にします。
  - d. すべてのクッキーを受け入れます。
  - e. 一時的なインターネット ファイルの新しいバージョンを自動的にチェックします。
  - f. [ 中 - 高 (Medium-High) ] のプライバシーを有効にします。
  - g. Microsoft Windows Server 2003 を実行しており、Internet Explorer バージョン 6.0 を使用して Cisco Personal Communications Assistant にアクセスしている場合は、次の [Connection](#) または [Cisco Unified CMBE サーバを信頼済みサイトの一覧に追加するには \(Windows Server 2003 と Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ\)](#) の手順を実行して、信頼済みサイトの一覧に Connection サーバを追加します。

### Connection または Cisco Unified CMBE サーバを信頼済みサイトの一覧に追加するには (Windows Server 2003 と Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ)

- 
- ステップ 1** Cisco Personal Communications Assistant のサインイン ページを開きます。Cisco PCA にサインインする必要はありません。
  - ステップ 2** Internet Explorer の [ファイル (File)] メニューで、[このサイトを追加する (Add This Site To)] > [信頼済みサイトゾーン (Trusted Sites Zone)] を選択します。
  - ステップ 3** [信頼済みサイト (Trusted Sites)] ダイアログボックスで [追加 (Add)] を選択します。
  - ステップ 4** [閉じる (Close)] を選択して、[信頼済みサイト (Trusted Sites)] ダイアログボックスを閉じます。
  - ステップ 5** Internet Explorer を再起動します。
-

# バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス

Cisco Unity Connection Serviceability に初めてサインインするときは、インストール中にインストーラからアカウントに対して指定されたデフォルト管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用します。次回からは、作成した新しい管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用できます。

## バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスするには

- 
- ステップ 1** サポートされている Web ブラウザを使用して、ブラウザ セッションを開きます。
  - ステップ 2** `https://<Cisco Unity Connection server IP address>/cusevice` にアクセスします。
  - ステップ 3** 該当するユーザ名とパスワードを入力して、[ ログイン (Login) ] を選択します。
- 

Cisco Unity Connection Serviceability にログインしたら、[ ナビゲーション (Navigation) ] ドロップダウンボックスに表示される Cisco Unified Operating System Administration と Disaster Recovery System 以外のすべてのアプリケーションにログインせずにアクセスできるようになります。

Cisco Unity Connection Serviceability のユーザ名とパスワードでは、Cisco Unified Operating System Administration や Disaster Recovery System にアクセスできません。Cisco Unity Connection Serviceability からこれらのアプリケーションにアクセスするには、Cisco Unity Connection Serviceability の右上にある [ ログアウト リンク (Logout link) ] を選択してから、[ ナビゲーション (Navigation) ] ドロップダウンボックスでアプリケーションを選択して、[ 移動 (Go) ] を選択します。

すでに、[ ナビゲーション (Navigation) ] ドロップダウンボックスに表示されているアプリケーションのいずれか (Cisco Unified Operating System Administration と Disaster Recovery System 以外) にログインしている場合は、ログインせずに Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスできます。[ ナビゲーション (Navigation) ] ドロップダウンボックスで、[ Cisco Unity Connection Serviceability ] を選択して [ 移動 (Go) ] を選択します。

# バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用

Cisco Unity Connection Serviceability でのトラブルシューティング、レポートの生成、サービス関連タスクの実行に加えて、次のタスクを実行できます。

- 単一ウィンドウ用のドキュメントを表示するには、[ ヘルプ (Help) ] > [ このページ (This Page) ] を選択します。
- このリリースの Connection または Cisco Unified CMBE で入手可能なドキュメントのリストを表示 (またはヘルプの索引にアクセス) するには、[ ヘルプ (Help) ] > [ コンテンツ (Contents) ] を選択します。
- サーバ上で動作している Cisco Unity Connection Serviceability のバージョンを確認するには、[ ヘルプ (Help) ] > [ バージョン情報 (About) ] を選択するか、ウィンドウの右上にある [ バージョン情報 (About) ] リンクをクリックします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unity Connection Serviceability 内のホームページに直接移動するには、[ ナビゲーション (Navigation) ] ドロップダウンボックスで [ Cisco Unity Connection Serviceability ] を選択します。

- Cisco Unity Connection Administration またはその他のアプリケーションにアクセスするには、[ ナビゲーション (Navigation) ] ドロップダウンボックスで該当するアプリケーションを選択して、[ 移動 (Go) ] を選択します。
- Cisco Unity Connection Serviceability からサインアウトするには、ウィンドウの右上にある [ ログアウト (Logout) ] リンクを選択します。
- Cisco Unity Connection Serviceability の設定ページには、ページの下部にある設定ボタンに対応する設定アイコンも表示されます (たとえば、タスクを完了するには、[ 保存 (Save) ] アイコンと [ 保存 (Save) ] ボタンのどちらかを選択できます)。





## バージョン 10.x のアラームの使用法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのアラームの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 10.x のアラームについて」 (P.2-1)
- 「バージョン 10.x のアラーム定義」 (P.2-1)
- 「バージョン 10.x のアラーム定義の表示」 (P.2-2)
- 「バージョン 10.x のアラーム設定」 (P.2-2)

### バージョン 10.x のアラームについて

Cisco Unity Connection Serviceability のアラームは、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報を提供します。そのため、システム関連の問題の解決に役立ちます。たとえば、アラームを使用して、MWI を設定可能なポートが存在するかどうかを判断できます。アラーム情報には、カタログ、名前、重大度、説明、推奨処置、ルーティング リスト、およびパラメータが含まれています。

アラームの有効/無効を切り替えて、ローカル サーバまたは指定したリモート サーバに syslog として表示できます。表示する重大度を設定することもできます。

アラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。アラームを表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

### バージョン 10.x のアラーム定義

アラーム定義は、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージに関する記述です。

[アラーム メッセージ定義 (Alarm Message Definitions)] ページでアラーム情報を参照します。アラームを選択すると、アラーム情報の説明と推奨処置が [アラーム情報 (Alarm Information)] ページに表示されます。トラブルシューティングを支援するために、定義にはアラーム名、状態、重大度、説明、推奨処置、ルーティング リスト、およびパラメータが含まれています。

## バージョン 10.x のアラーム定義の表示

『*Alarm Message Definitions for Cisco Unity Connection Release 10.0*』でアラーム定義を検索して確認できます。このドキュメントは、  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/alarm\\_messages/10cucalarmmsgdef.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/alarm_messages/10cucalarmmsgdef.html) から入手可能です。

## バージョン 10.x のアラーム設定

この項では、アラームを有効/無効にする方法について説明します。  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/alarm\\_messages/10cucalarmmsgdef.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/alarm_messages/10cucalarmmsgdef.html) の適切な手順を実行してください。

### バージョン 10.x のアラームを有効にするには

- 
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configurations)] を選択します。
  - ステップ 2 [アラーム設定 (Alarm Configurations)] ウィンドウ
    - SysLog Viewer のアプリケーション ログ領域でアラームの記録を可能にするには、[アラームの有効化 (Enable Alarm)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 3 アラームを有効にした syslog の下の [アラーム イベント レベル (Alarm Event Level)] フィールドで、必要な重大度を選択します。
  - ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。
- 

### バージョン 10.x のアラームを無効にするには

- 
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configurations)] を選択します。
  - ステップ 2 [アラーム設定 (Alarm Configurations)] ウィンドウで、該当する [アラームの有効化 (Enable Alarm)] チェックボックスをオフにします。
  - ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。
-





## バージョン 10.x のトレースの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのトレースの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 10.x のトレースについて」 (P.3-1)
- 「バージョン 10.x のトレース ログ ファイルの設定」 (P.3-2)
- 「バージョン 10.x のマイクロ トレースの有効化」 (P.3-2)
- 「バージョン 10.x で使用可能なマイクロ トレース」 (P.3-3)
- 「バージョン 10.x のマクロ トレースの有効化」 (P.3-10)
- 「バージョン 10.x で使用可能なマクロ トレース」 (P.3-11)

### バージョン 10.x のトレースについて

Cisco Unity Connection Serviceability トレースは、次のような方法で、問題の解決に役立てることができます。

- Unity Connection コンポーネントに対してトレースを実行したときに作成されるログ ファイルの最大数や最大サイズなどのログ ファイル パラメータをコンポーネントごとに指定できます。
- マイクロ トレースと、必要なマイクロ トレース情報のレベルを有効にできます。
- マクロ トレース（事前に選択されたマイクロ トレースのグループ）と、必要なマクロ トレース情報のレベルを有効にできます。

ログ ファイルを設定してトレースを有効にしたら、次のいずれかの方法でトレース ログ ファイルを収集できます。

- Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 内の Trace and Log Central オプションを使用して。詳細については、『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「Working with Trace and Log Central」の章（「Tools for Traces, Logs, and Plug-Ins」内）を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手可能です。
- コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手可能です。



(注) マクロ トレースまたはマイクロ トレースを有効にすると、システム性能が低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティング目的のときにだけにしてください。


## バージョン 10.x のトレース ログ ファイルの設定

Cisco Unity Connection サービスのトレース ログ ファイルを設定するには、この項の手順を実行します。



(注) トレース情報がログ ファイルに書き込まれるようにするには、まず、選択された領域にトラブルシューティング情報を提供するマイクロ トレースまたはマクロ トレースを有効にする必要があります。

### バージョン 10.x のトレース ログ ファイルを設定するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[ トレース (Trace) ] > [ 設定 (Configuration) ] を選択します。
- [ トレース設定 (Trace Configuration) ] ページが表示されます。
- ステップ 2** [ サーバ (Server) ] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[ 移動 (Go) ] を選択します。
- ステップ 3** [ コンポーネント (Component) ] ドロップダウンボックスで、トレース ログ ファイルを設定するコンポーネントを選択して、[ 移動 (Go) ] を選択します。
-  (注) ドロップダウンボックスにすべてのコンポーネントが表示されます (アクティブと非アクティブ)。
- ステップ 4** [ ファイルの最大数 (Maximum No.of Files) ] フィールドに、このコンポーネントに対して作成されるトレース ログ ファイルの最大数を入力します。
- ステップ 5** [ ファイルサイズの最大数 (Maximum File Size) ] フィールドに、このコンポーネント用に作成するトレース ログ ファイルのサイズ限界 (MB 単位) を入力します。
- ステップ 6** デフォルト設定に戻す場合は、[ デフォルトの設定 (Set Default) ] を選択します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- ステップ 7** [ 保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 8** このコンポーネントの古いトレース ログ ファイルを新しいトレース ログ ファイルで置き換えるには、[ ログ ファイルの再スタート (Restart Log Files) ] を選択します。

## バージョン 10.x のマイクロ トレースの有効化

マイクロ トレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントに伴う問題のトラブルシューティング中に有効にします。たとえば、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 内の Alert Central ツールで通知エラーが発生した場合は、Notifier トレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム性能とハードディスク スペースに影響する可能性があることに注意してください。



(注) マイクロ トレースを有効にすると、システム パフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティング目的のときにだけにしてください。

### バージョン 10.x のマイクロ トレースを有効にするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[トレース (Trace)] > [マイクロ トレース (Micro Traces)] を選択します。  
[マイクロ トレース (Micro Traces)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** [マイクロ トレース (Micro Traces)] ドロップダウンボックスで、有効にするマイクロ トレースを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 4** [マイクロ トレース レベル (Micro-Trace Levels)] の下で、有効にするマイクロ トレース レベルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。



### ヒント

Unity Connection の問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にしなければならない場合があります。Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手可能です。

## バージョン 10.x で使用可能なマイクロ トレース

表 3-1 に、使用可能なマイクロ トレース、それぞれの分析対象の説明、およびそれぞれのトレース ログのファイル名を示します。

表 3-1 バージョン 10.x のマイクロ トレース

マイクロ トレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
Arbiter	コールに使用されるカンバセーション、ポート、およびコール ルーティングルール	diag_CuCsMgr_*.uc
AudioStore	Media Master を使用してオーディオ ストリームを再生または録音する Web ベースのアプリケーションで使用されるオーディオ録音サービス	diag_Tomcat_*.uc

表 3-1 バージョン 10.x のマイクロ トレース (続き)

マイクロ トレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
AxlAccess	電話機に関する特性を取得または設定するための AXL サーバとのデータのやり取り	diag_Tomcat_*.uc
BulkAdministrationTool	複数のユーザまたはシステム連絡先の作成、更新、および削除に使用される Bulk Administration Tool	diag_Tomcat_*.uc
CCL	カレンダー機能の会議情報の取得	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuGalSvc_*.uc diag_Tomcat_*.uc
CDE	カンパセッション エンジンとカンパセッション イベント	diag_CuCsMgr_*.uc
CDL	データベースからの情報の取得	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
CiscoPCA	Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA)	diag_Tomcat_*.uc
CML	Cisco Unity Connection メッセージストアからのメッセージの取得、テキスト/スピーチ機能を使用して電子メール メッセージを読み取るための Exchange サーバからのメッセージの取得 (IMAP を使用)	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Common	Cisco Unity Connection サービスで共有されたコンポーネントの低水準アクティビティ	<any>
ConfigData	データベース内で更新された設定データの検出	<any>
ConvRoutingRules	Arbiter からコールがルーティングされるカンパセッション	diag_CuCsMgr_*.uc
ConvSub	ユーザのアクティビティと使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
CsEws	Unity Connection から単一受信トレイ、カレンダー、および音声合成の Exchange への Exchange Web サービス コール	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMbxSync_*.uc
CsExchangeMbxLocator	単一受信トレイ、カレンダー、および音声合成の Exchange メールボックスの自動検出	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMbxSync_*.uc
CsLicense	ライセンス処理に関連した機能	diag_CuLicSvr_*.uc
CsMalUmss	CML、Notifier、および IMAP サーバによるメッセージストアへのアクセス	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
CsMbxSync	単一受信トレイの同期	diag_CuMbxSync_*.uc

表 3-1 バージョン 10.x のマイクロトレース (続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
CsWebDav	Exchange に関連したカレンダー アクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuGalSvc_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Cuals	ユーザを追加するための Web サービスのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
Cuca	Cisco Unity Connection Administration のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
CuSrvSync	Survival Remote Site Voicemail (SRSV) 処理に関連するアクティビティ	diag_CUCESync_*.uc
CuCmSynchronizationTasks	Cisco Unified CM からのユーザデータの同期化	diag_Tomcat_*.uc
CuCmDbEventListener	Cisco Unified CM データベース上の変更の検出	diag_CuCmDbEventListener_*.uc
cuesmgr	Cisco Unity Connection の主要プロセス、Unity Connection の起動と停止	diag_CuCsMgr_*.uc
CuDbProxy	Cisco Unity Connection クラスタのデータベース レプリケーション	diag_CuDbProxy_*.uc
CuEncrypt	暗号化 (メッセージングを除く) と暗号化監査ログ	<any>
CuESD	Cisco Unity Connection の外部サービス診断ツールのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
CuFileSync	Cisco Unity Connection クラスタのファイル レプリケーション	diag_CuFileSync_*.uc
CuGal	Exchange からのカレンダーおよび連絡先情報の取得	diag_CuGalSvc_*.uc
CuImapSvr	IMAP クライアントによるボイスメッセージへのアクセス	diag_CuImapSvr_*.uc
CuReplicator	デジタル ネットワーキングのレプリケーション  (注) Debug Traces および Debug Statistics のマイクロトレース レベルでは大量のログ エントリが生成される場合があるため、これらのマイクロトレース レベルを有効にする期間は 1 時間以内にするをお勧めします。	diag_CuReplicator_*.uc
CuService	Cisco Unity Connection Serviceability のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
CuSnmpAgt	Cisco Unity Connection SNMP サブエージェントのアクティビティ	diag_CuSnmpAgt_*.uc
DataSysAgentTasks	Data SysAgent タスク	diag_CuSysAgent_*.uc

表 3-1 バージョン 10.x のマイクロ トレース (続き)

マイクロ トレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
DbEvent	データベース変更のコンポーネント通知	<any>
DPAPI	診断ポータル アプリケーション プログラミング インターフェイス Web サービスのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
EWSNotify	Exchange EWS メール ボックス同期の通知	<date in the format yyyy_mm_dd>.stderrout.log.*
FailureConv	システム エラーが発生した場合の障害カンバセーションの有効化	diag_CuCsMgr_*.uc
Feeder	サイト間ネットワークングでは、このマイクロ トレースが、ローカル サイトの変更トラッキング データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート サイト ゲートウェイの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。  HTTPS ネットワークングではこのマイクロ トレースが、Feeder のローカル サブツリーの変更トラッキング データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート ロケーションの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。	diag_Tomcat_*.uc
FeedReader	サイト間ネットワークングでは、このマイクロ トレースが、定期的によりリモート サイト ゲートウェイで最後のポーリング インターバル以降のディレクトリ変更をポーリングします。  HTTPS ネットワークングでは、このマイクロ トレースが、定期的によりリモート ロケーションで最後のポーリング インターバル以降のディレクトリ変更をポーリングします。	diag_Tomcat_*.uc
LicenseClient	ライセンス管理に関連した機能	diag_CuCsMgr_*.uc
Logger	トレース、ログ、およびイベントの書き込み	<any>
MediaMasterControl	クライアントワークステーション上の Media Master	diag_Tomcat_*.uc
MediaMasterUMS	Media Master と AudioStore 間のストリーム オーディオ録音を処理する UMS サービス	diag_Tomcat_*.uc

表 3-1 バージョン 10.x のマイクロトレース (続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
MediaMasterWeb	Media Master を備えた Web ベースアプリケーションで使用される Web ページ レンダリング モジュール	diag_Tomcat_*.uc
MessageEventService	メッセージの到着または削除の検出	diag_Tomcat_*.uc
MiuAdm	ボイス メッセージ ポートのテストと証明書の生成に関連した Cisco Unity Connection Administration の機能	diag_Tomcat_*.uc
MiuCall	Miu とカンバセーション間のプロセス	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuDatatbase	データベースへのアクセスに関連したメディア アクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuGeneral	電話ユーザ インターフェイス (TUI) 経由のコール追跡、コール制御機能、通話待ち指示器 (MWI) のオン/オフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、基本メディアまたは WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuIO	TAPI (回線交換または Cisco Unified CallManager) 連動でのメディアまたは WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuMethods	着信コールの処理、コール制御、MWI のオン/オフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、メディアまたは WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuSIP	SIP コール制御	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuSIPStack	コール制御に関する低水準 SIP 相互作用	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuSkinny	SCCP コール制御	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuTranscode	トランスコーディングに関連した低水準メディア機能	diag_CuCsMgr_*.uc
Mixer	メディアおよびテキスト/スピーチ機能に関連した低水準アクティビティ	diag_CuMixer_*.uc
Monitor	コール中のボイス メッセージ ポートのステータスとコール処理の監視、Real-Time Monitoring Tool にポートステータスを表示するためのサーバ側機能	diag_CuCsMgr_*.uc
MTA	メッセージストアへのボイス メッセージの配信	diag_MTA_*.uc

表 3-1 バージョン 10.x のマイクロ トレース (続き)

マイクロ トレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
Notifier	メッセージと選択されたイベントの通知、MWI のオン/オフの切り替え	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
PCAMeetingPlace	カレンダー機能の MeetingPlace に関連した Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ	diag_Tomcat_*.u
PCUnifiedCM	Cisco Unified Communications Manager 運動に関連した Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
PhoneManager	IP フォンアプリケーションの管理	diag_CuCsMgr_*.uc
PhraseServer	再生するプロンプトとユーザ DTMF 入力、ログはファイルに書き込まれる	diag_CuCsMgr_*.uc
PhraseServerToMonitor	再生するプロンプトとユーザ DTMF 入力、ログはモニタに出力される	diag_CuCsMgr_*.uc
ReportDataHarvester	レポート データベース内のエントリに対するデータ ログ ファイルの内容の変換	diag_CuReportDataHarvester_*.uc
ResourceLoader	GUI での選択された言語の使用、製品またはメッセージ情報を使用した文字列入力	<any>
ResourceManager	使用可能なリソースを監視し、必要に応じて Arbiter に提供	diag_CuCsMgr_*.uc
RoutingRules	コールルーティングの決定	diag_CuCsMgr_*.uc
RSSRSS	RSS クライアントからのボイスメールの確認に使用される RSS フィード	diag_Tomcat_*.uc
RulesEngine	コール中に行われるユーザのパーソナル着信転送ルールの評価	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
SMTP	SMTP 機能	diag_SMTP_*.uc
SocketPoolHelper	IMAP サーバへのソケット接続	<any>
SRM	クラスタ管理に関連した機能	diag_CuSrm_*.uc
SslInit	OpenSSL を使用するコンポーネントの初期化手順	<any>
SttClient	音声テキスト変換が必要なメッセージの検出、変換したテキストを元のメッセージへ添付	diag_MTA_*.uc
SttService	Cisco Unity Connection と外部のサードパーティ音声テキスト変換サービスとの通信	diag_SttService_*.uc



表 3-1 バージョン 10.x のマイクロトレース (続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
SysAgent	管理者が入力したシステム タスク (MWI の再同期化など) をスケジュールするシステム エージェント コンポーネント	diag_CuSysAgent_*.uc
TaskRequest	タスク管理ツールに関連した機能	diag_CuSysAgent_*.uc
TextToSpeech	テキスト/スピーチ機能のアクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc
ThreadPool	プロセッサによるスレッドの使用	<any>
TimerHelper	Conversation Manager コンポーネントで使用されるタイマー	<any>
TranscodeWeb	着信オーディオ ストリームを Cisco Unity Connection で使用されるオーディオ形式に変換する Web サーバ オーディオ形式変換ユーティリティ	diag_Tomcat_*.uc
TRaP	クライアントが電話機を録音および再生デバイスとして使用できるようにする電話での録音と再生 (TRaP)	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
UmssSysAgentTasks	System Agent コンポーネントのメッセージ タスク	diag_CuSysAgent_*.uc
UnityAssistant	Cisco Personal Communications Assistant 内の Messaging Assistant Web ツールのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
UnityInbox	Cisco Personal Communications Assistant 内の Messaging Inbox Web ツールのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
UnityPCTR	Cisco Personal Communications Assistant 内の Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールのアクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc
Video	API を介した Unity Connection と Cisco MediaSense 間のビデオ コールのアクティビティ。	diag_CuCsMgr_*.uc
VirtualQueue	コール キューイング	diag_CuCsMgr_*.uc
VMREST	Representational State Transfer (REST) API クライアントとのデータのやり取り	diag_Tomcat_*.uc
VMWS	ボイス メッセージ Web サービスとのデータのやり取り	diag_Tomcat_*.uc
VUI	ボイス ユーザ インターフェイス	diag_CuCsMgr_*.uc

## バージョン 10.x のマクロ トレースの有効化

マクロ トレース（事前に選択されたマイクロ トレースのセット）は、Unity Connection 機能の一般的な領域をトラブルシューティング中に有効にします。たとえば、MWI 問題が発生した場合は、Traces for MWI Problems マクロ トレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム性能とハードディスク スペースに影響する可能性があることに注意してください。



### 注意

マクロ トレースを有効にすると、システム パフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティング目的のときにだけにしてください。

### マクロ トレースを有効にするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[トレース (Trace)] > [マクロ トレース (Macro Traces)] を選択します。  
[マクロ トレース (Macro Traces)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** 有効にするマクロ トレースのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** マクロ トレースを展開して、有効にするレベルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。



### ヒント

Unity Connection の問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にしなければならない場合があります。Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手可能です。

## バージョン 10.x で使用可能なマクロ トレース

表 3-2 に、使用可能なマクロ トレース、それぞれの分析対象の説明、およびそれぞれのトレース ログのファイル名を示します。

表 3-2 バージョン 10.x のマクロ トレース

マクロ トレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
Call Flow Diagnostics	Cisco Unity Connection 経由のコール フロー	diag_CuCsMgr_*.uc
Message Tracking Traces	メッセージ処理、メッセージを処理するオブジェクト (配信から削除まで)	diag_CuSysAgent_*.uc diag_MTA_*.uc diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuImapSvr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Call Control (Miu) Traces	コール制御機能	diag_CuCsMgr_*.uc
Traces for MWI Problems	MWI のオン/オフの切り替え	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
Traces for Other Notification Problems	通知機能とアウトダイヤル機能	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
Unity Startup	Cisco Unity Connection 起動機能	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
Conversation Traces	カンバセーションの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
Voice User Interface/Speech Recognition Traces	ボイス ユーザ インターフェイス (VUI)	diag_CuCsMgr_*.uc
Media (Wave) Traces	メディアおよび WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMixer_*.uc
Text to Speech (TTS) Traces	テキスト/スピーチ (TTS) 機能、TTS とデータをやり取りする別の Cisco Unity Connection コンポーネントに関するトレースを記録することもできる	diag_CuCsMgr_*.uc
Unity Connection Serviceability Web Service	Cisco Unified Serviceability のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
ViewMail for Outlook	Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook クライアントのアクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuImapSvr_*.uc diag_MTA_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Digital Networking	デジタル ネットワーキング機能	diag_CuReplicator_*.uc
Single Inbox	シングル インボックス メッセージの同期	<date in the format yyyy_mm_dd>.stderrout.log.* diag_CuMbxSync_*.uc

■ バージョン 10.x で使用可能なマクロ トレース



## Cisco Unity Connection 10.x クラスタ内のサーバステータスとポートの管理

Cisco Unity Connection Serviceability の [クラスタ管理 (Cluster Management) ] ページを使用すれば、Unity Connection クラスタ内のサーバのステータスを変更したり、サーバ上のすべてのポートで新しいコールの受信を拒否したり、サーバ上のすべてのポートを再起動してコールの受信を許可したりすることができます。

該当する手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』Release 10.x の「[Administering a Cisco Unity Connection 10.x Cluster](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/cluster\\_administration/guide/10xcu\\_ccagx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/cluster_administration/guide/10xcu_ccagx.html) から入手可能です。



(注)

Unity Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition との使用ではサポートされていません。





# Cisco Unity Connection 10.x サービスの管理

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのサービスの管理に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス」 (P.5-1)
- 「バージョン 10.x の Control Center でのサービス管理」 (P.5-4)

## バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス

Cisco Unity Connection には、表 5-1 に記載されたサービスがあります。

表 5-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス

サービス	説明
<b>ステータスのみのサービス</b>	
Connection DB	このサービスは、Unity Connection データベースを有効にします。コマンドライン インターフェイス (CLI) からしか非アクティブにできません。
Connection License Manager サーバ	このサービスは、Unity Connection サーバのライセンス ステータスを管理します。
Connection サーバ ロール マネージャ	このサービスは、Unity Connection クラスタの設定時にサーバステータスを有効にします。また、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してのみ非アクティブ化できます。
Connection Serviceability	このサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability 管理インターフェイスを有効にします。コマンドライン インターフェイス (CLI) からしか非アクティブにできません。
<b>重要なサービス</b>	
Connection Conversation Manager	このサービスは、Unity Connection によるコール処理を可能にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
Connection Mailbox Sync	このサービスは、Unity Connection および Exchange 間のメッセージを同期します。

表 5-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス (続き)

サービス	説明
Connection メッセージ転送エージェント	このサービスは、メッセージストアへのメッセージ配信を有効にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
Connection Mixer	このサービスは、コール用のオーディオ (メディア ストリーム)、録音メッセージ、およびテキスト/スピーチ (TTS) を有効にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
Connection Notifier	このサービスは、通話待ち指示器 (MWI) のオン/オフの切り替えなどのメッセージ通知を有効にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
<b>基本サービス</b>	
Connection Administration	このサービスは、Cisco Unity Connection Administration とインターフェイスで保存された設定を有効にします。
Connection DB Event Publisher	このサービスは、Connection データベースへの Unity Connection コンポーネントの変更の通知を有効にします。
Connection SNMP エージェント	このサービスは、Cisco-Unity-MIB を使用する簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を有効にします。
<b>オプション サービス</b>	
Connection Access Layer	このサービスは、Cisco Unity Access Layer (CUAL) の HTTP/SOAP Web サービスを使用することによって、Unity Connection とその他のサーバ間でのユーザデータの共有を可能にします。たとえば、このサービスは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition (CMBE) または Cisco Unity を使用したデジタル ネットワーキングで使用できます。
Connection Branch Sync Service	このサービスは、Survivable Remote Site Voicemail (SRSV) 機能を有効にします。
Connection CM Database Event Listener	このサービスは、Cisco Unified Communications Manager データベース内の変更検出を可能にします。
Connection データベース プロキシ	このサービスは、Unity Connection サーバにインストールされていないツール (COBRAS、User Data Dump、Distribution List Builder など) を使用して、ネットワーク上の Windows クライアントから ODBC 経由で Unity Connection データベースに直接アクセスできるようにします。  このサービスはデフォルトでオフになっています。これらのツールのいずれかを使用するには、サービスを有効にし、サービスのタイムアウトを設定し、リモート管理者ロールを持つユーザを作成する必要があります。詳細については、該当するツールのヘルプ ファイルを参照してください。
Connection Diagnostic Portal Service	このサービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Diagnostic Portal による Unity Connection 上のデータへのアクセスを可能にします。



表 5-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス (続き)

サービス	説明
Connection Digital Networking Replication Agent	このサービスは、デジタル ネットワーキング用の Unity Connection サーバ間でのデータ レプリケーションを可能にします。
Connection Directory Feeder	サイト間ネットワーキングでは、このサービスが、ローカル サイトの変更トラッキング データベースでディレクトリ 変更をチェックし、リモート サイト ゲートウェイの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。
Connection File Syncer	このサービスは、Unity Connection クラスタのファイル レプリケーションを可能にします。
Connection Groupware Caching Service	このサービスは、Unity Connection によるカレンダー データ (Exchange、MeetingPlace、または MeetingPlace Express の各サーバから) のキャッシュと Exchange 連絡先の キャッシュを可能にします。
Connection HTTP(S) Directory Feeder	このサービスは、自身の変更トラッキング データベースおよびディレクトリ変更に対する関連するローカル サブツリー ロケーションをチェックし、リモート ロケーション Reader タスクからのポーリング要求に応答します。
Connection IMAP サーバ	このサービスは、IMAP クライアントによる Unity Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。
Connection Inbox RSS Feed	このサービスは、RSS クライアントからのボイスメールをチェックするために RSS フィードを有効にします。
Connection Integrated Mailbox Configuration	このサービスは、Connection と Cisco Unified Communications Manager 間でのユーザ データの共有を可能にします。
Connection Jetty	このサービスは、Java Web クライアントを有効にします。
Connection Message Event Service	このサービスは、Cisco Unified Mobility Advantage による Unity Connection 上でのボイス メッセージ データへのアクセスを可能にします。
Connection Personal Communication Assistant	このサービスは、Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA) による Unity Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。
Connection Realtime Monitoring APIs	このサービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) による Unity Connection 上のデータへのアクセスを可能にします。
Connection Reports Data Harvester	このサービスは、ログ ファイル内のデータから、レポートの生成に使用される、レポート データベース内のエントリー への変換を可能にします。
Connection REST サービス	このサービスは、Representational State Transfer (REST) API クライアントを有効にします。
Connection SMTP サーバ	このサービスは、SMTP サーバによる Unity Connection 上のデータへのアクセスを可能にします。
Connection SpeechView	このサービスは、SpeechView 機能を有効にし、外部の サードパーティ音声テキスト変換サービスと通信します。

表 5-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection サービス (続き)

サービス	説明
Connection システム エージェント	このサービスは、管理者が Cisco Unity Connection Administration に入力できるシステム タスク (MWI の再同期化など) のスケジュール設定を可能にします。
Connection ボイスメール Web サービス	このサービスは、Visual Voicemail などの Cisco Unified Communications Widgets によるボイスメール Web サービス (VMWS) 経由で Unity Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。
Connection Voice Recognition Transport	このサービスは、ボイス ユーザ インターフェイス (VUI) 用の音声認識エンジンで使用される動的文法の生成と配置を可能にします。
Connection Voice Recognizer	このサービスは、VUI 用の音声認識を可能にする音声認識エンジンです。

## バージョン 10.x の Control Center でのサービス管理

Cisco Unity Connection Serviceability のコントロール センターを使用すると、次のタスクを実行できます。

- [オプション サービス (Optional Services)] セクションの Unity Connection サービスをアクティブまたは非アクティブにします。
- [ステータスのみのサービス (Status Only Services)] セクション内のサービスを除くすべての Unity Connection サービスを起動または停止します。

[重要なサービス (Critical Services)] セクション内の Unity Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断され、Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバの通常の機能が停止または低下する可能性があります。

Cisco Unity Connection クラスタが設定されている場合は、ステータスが [プライマリ (Primary)] になっているサーバの [重要なサービス (Critical Services)] セクション内のサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変化します。

- Unity Connection サービスのステータスを表示します。
- Unity Connection サービスのステータスをリフレッシュします。



### ヒント

問題をトラブルシューティングするためには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方のサービスの管理が必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability サービスについては、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

この項では、5 つの手順 (Connection サービスのアクティブ化、非アクティブ化、起動、停止、またはサービス ステータスのリフレッシュ) について説明します。アクティブ化、非アクティブ化、起動、および停止できるサービスは一度に 1 つだけです。

### バージョン 10.x の Control Center でサービスをアクティブにするには

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools (ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** [オプション サービス (Optional Services)] の下で、アクティブ化するサービスを探します。
- ステップ 4** [アクティブ化ステータスの変更 (Change Activate Status)] カラムで、[アクティブ化 (Activate)] を選択します。
- 

### バージョン 10.x の Control Center でサービスを非アクティブにするには

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools (ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** [オプション サービス (Optional Services)] の下で、非アクティブ化するサービスを探します。
- ステップ 4** [アクティブ化ステータスの変更 (Change Activate Status)] カラムで、[非アクティブ化 (Deactivate)] を選択します。
- 

### バージョン 10.x の Control Center でサービスを起動するには

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools (ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** 起動するサービスを探します。



(注) 非アクティブになっているサービスは、アクティブにしてから起動する必要があります。

---

- ステップ 4** [サービス ステータスの変更 (Change Service Status)] カラムで、[開始 (Start)] を選択します。
- 

### バージョン 10.x の Control Center でサービスを停止するには

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools (ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** 停止するサービスを探します。



**(注)** [ステータスのみのサービス (Status Only Services)] セクション内のサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability では起動や停止はできません。こうしたサービスの起動や停止を行うには、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する必要があります。

Unity Connection クラスタが設定されている場合は、ステータスが [プライマリ (Primary)] になっているサーバの [重要なサービス (Critical Services)] セクション内のサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変化します。サービスを停止したときにステータスが変化しないようにするには、Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [クラスタ設定 (Cluster Configuration)] ページで、[パブリッシャ サーバで障害が発生した場合は、自動的にサーバのステータスを変更する (Automatically Change Server Status When the Publisher Server Fails)] チェックボックスをオフにする必要があります。

**ステップ 4** [サービス ステータスの変更 (Change Service Status)] カラムで、[停止 (Stop)] を選択します。



**(注)** [重要なサービス (Critical Services)] セクション内の Unity Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断され、Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバの通常の機能が停止または低下する可能性があります。

アクティブでないサービスは開始も停止もできません。

**ステップ 5** クラスタ サーバのステータスが変化することの確認が求められたら、[OK] を選択します。

### バージョン 10.x の Control Center でサービス ステータスをリフレッシュするには

**ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools (ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。

**ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。

**ステップ 3** [リフレッシュ (Refresh)] を選択します。  
ステータス情報が更新され、最新のステータスが反映されます。



## バージョン 10.x のレポートの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのレポートの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 10.x のレポートについて」 (P.6-1)
- 「バージョン 10.x のレポート設定パラメータの設定」 (P.6-5)
- 「バージョン 10.x のレポートの生成と表示」 (P.6-5)

### バージョン 10.x のレポートについて

Cisco Unity Connection Serviceability を使用すれば、システム設定とコールハンドラに関する情報を収集してレポートを作成できます。

表 6-1 に、Cisco Unity Connection Serviceability で生成可能なレポートの説明を示します。

表 6-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート

レポート名	出力の説明
電話インターフェイス 失敗したログイン (Phone Interface Failed Logon)	電話による Unity Connection へのサインインの試行が失敗した各場合に関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• サインインに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号。</li><li>• ログインに失敗した日付と時刻。</li><li>• ユーザがサインイン試行回数の最大数に達したかどうか。</li></ul>
ユーザ (Users)	各ユーザに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 姓、名、およびエイリアス。</li><li>• ユーザに関連付けられた Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバを識別する情報。</li><li>• 課金 ID、サービスクラス、および内線番号。</li><li>• アカウントがロックされているかどうか。</li><li>• ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしていたかどうか。</li></ul>

表 6-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート (続き)

レポート名	出力の説明
メッセージトラフィック (Message Traffic)	次のトラフィック カテゴリの総数が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>音声。</li> <li>ファクス。</li> <li>メール。</li> <li>不達確認 (NDR)。</li> <li>送信確認。</li> <li>開封確認。</li> <li>時間別合計。</li> <li>日別合計。</li> </ul>
ポート アクティビティ (Port Activity)	ボイス メッセージング ポートに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前。</li> <li>処理されたインバウンド コールの数。</li> <li>処理された発信 MWI コール数。</li> <li>処理された発信 AMIS コール数。</li> <li>処理された発信通知コール数。</li> <li>処理された発信 TRaP コール数。</li> <li>処理されたコールの総数。</li> </ul>
メールボックス ストア (Mailbox Store)	指定されたメールボックス ストアに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メール データベース名。</li> <li>表示名。</li> <li>サーバ名。</li> <li>アクセスが可能かどうか。</li> <li>メールボックス ストアのサイズ。</li> <li>最後のエラー。</li> <li>ステータス。</li> <li>メール データベースを削除できるかどうか。</li> </ul>
ダイヤル プラン (Dial Plan)	Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバ上で設定されたサーチ スペースのリストと、各サーチ スペースに割り当てられたパーティションの順序付きリストが含まれています。  サーバがデジタル ネットワークに含まれている場合は、ネットワーク上のその他のすべての Unity Connection の場所にあるサーチ スペースとそれに関連付けられたパーティション メンバシップもリストされます。
ダイヤル検索範囲 (Dial Search Scope)	Unity Connection ディレクトリ内に設定されている指定されたパーティション内のすべてのユーザとその内線番号のリストが含まれています。パーティションが指定されていない場合は、ディレクトリ内に設定されているすべてのパーティションのすべてのユーザとその内線番号がリストされます。

表 6-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート (続き)

レポート名	出力の説明
ユーザ電話ログインおよび NMI (User Phone Login and MWI)	<p>ユーザごとの電話ログイン、MWI アクティビティ、および電話機に対するメッセージ通知に関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名前、内線番号、およびサービス クラス。</li> <li>各アクティビティの日付と時刻。</li> <li>各アクティビティのソース。</li> <li>完了した処理 (ログイン、MWI のオン/オフ、電話機のダイヤルアウトなど)</li> <li>ダイヤルアウト番号と結果 (電話機に対するメッセージ通知の場合にのみ適用可能)。</li> <li>ログイン時のユーザに対する新しいメッセージの数</li> </ul>
ユーザ メッセージ アクティビティ (User Message Activity)	<p>送受信されたメッセージに関するユーザごとの次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名前、内線番号、およびサービス クラス。</li> <li>各メッセージの日付と時刻。</li> <li>メッセージのタイプ。</li> <li>完了した処理 (メッセージの新規作成やメッセージの開封など)。</li> <li>メッセージ送信者に関する情報。</li> </ul>
同報リスト (Distribution Lists)	<p>次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リストの名前と表示名。</li> <li>リストが作成された日付と時刻。(日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)。</li> <li>リストに登録されたユーザ数のカウント。</li> <li>[リスト メンバーを含む (Include List Members)] チェックボックスがオンになっている場合は、リストのメンバーになっているユーザごとのエイリアスのリスト。</li> </ul>
ユーザ ロックアウト (User Lockout)	<p>ユーザのエイリアス、ユーザがログインに失敗した回数、クレデンシャルのタイプ (結果が「4」の場合は Unity Connection カンパセーションからのログイン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログイン試行を示す)、およびアカウントがロックされた日付と時刻が含まれています。</p> <p>(日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)。</p>
未使用ボイス メール アカウント (Unused Voicemail Accounts)	<p>ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザ アカウントが作成された日付と時刻が含まれています。</p> <p>(日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)。</p>
転送コール課金 (Transfer Call Billing)	<p>各コールに関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザの名前、内線番号、および課金 ID。</li> <li>コールが発生した日付と時刻。</li> <li>ダイヤルされた電話番号。</li> <li>転送の結果 (接続、無応答 (RNA)、通話中、または不明)。</li> </ul>

表 6-1 バージョン 10.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート (続き)

レポート名	出力の説明
発信請求 詳細 (Outcall Billing Detail)	日付および電話をかけたユーザの内線番号によって整理された次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前、内線番号、および課金 ID。</li> <li>コールが発生した日付と時刻。</li> <li>呼び出された電話番号。</li> <li>コールの結果 (接続、無応答 (RNA)、通話中、または不明)。</li> <li>コールの長さ (秒単位)。</li> </ul>
発信請求 要約 (Outcall Billing Summary)	日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、課金 ID に従って整理されており、時間ごとに指定されたダイヤルアウト秒数が示された 1 日 (24 時間) のリストです。
コールハンドラトラ フィック (Call Handler Traffic)	各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1 行が 1 時間分を表します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コールの総数。</li> <li>電話機のキーパッドの各キーが押された回数。</li> <li>内線番号。</li> <li>無効な内線番号。</li> <li>グリーティング処理の回数。</li> <li>発信者が電話を切った回数。</li> </ul>
システム設定 (System Configuration)	Unity Connection システムの設定のすべての側面に関する詳細情報が含まれています。
ユーザ別 SpeechView ア クティビティ レポート (SpeechView Activity Report By User)	特定の期間中の特定のユーザに関する、文字変換されたメッセージ、失敗した文字変換、および切り捨てられた文字変換の総数が含まれています。レポートがすべてのユーザに対して実行された場合、出力はユーザごとに分割されます。
SpeechView アクティビ ティ要約レポート (SpeechView Activity Summary Report)	特定の期間中のシステム全体に関する、文字変換されたメッセージ、失敗した文字変換、および切り捨てられた文字変換の総数が含まれています。メッセージが複数の受信者に送信された場合でも、そのメッセージは 1 回しか文字変換されないため、文字変換アクティビティは 1 回だけカウントされます。
HTTPS ネットワーキン グ同期エラー レポート (HTTPS Networking Sync Error Report)	(HTTPS ネットワーキングにのみ該当) ディレクトリ同期中に同期しないディレクトリ オブジェクトに関連する以下の情報が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>作成日</li> <li>失敗した ObjectId</li> <li>USN</li> <li>オブジェクトタイプ</li> <li>ロケーションの表示名</li> <li>HTTP(S) のリンク</li> <li>エラー メッセージ</li> </ul>



## バージョン 10.x のレポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection は、レポートを生成できる元のデータを収集して保存するように自動的に設定されます。この項で列挙するパラメータは、生成対象レポートの出力に合わせて調整できます。すべてのレポートパラメータの設定が、Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [レポート (Reports)] ページにあります。

レポートデータは、データの保存に関して設定したパラメータに応じて、徐々に上書きされます。履歴を残すためにレポートを保管する場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを立て、生成されたレポートを Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

[データ収集サイクルの間隔 (ミリ秒) (Milliseconds Between Data Collection Cycles)] : デフォルトでは 30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されています。この設定によって、Unity Connection がレポートデータの収集サイクル間で待機する時間が制御されます。

[レポートデータベースのデータ保存期間 (日) (Days to Keep Data in Reports Database)] : デフォルトでは、180 日に設定されています。生成しているレポートの時間範囲にこれを超える日数を指定した場合でも、データの日数はここで設定した値によって制限されることに注意してください。

[レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)] : デフォルトでは 25,000 レコードに設定されています。このフィールドに許容される最大値は 30,000 レコードです。生成するレポートが許容されるレコードの最大数を超過している場合は、レポートを何回かに分けて生成します (たとえば、1 回に含める日付の範囲やユーザアカウント数を減らします)。



(注)

[ユーザメッセージアクティビティレポート (User Message Activity Report)] の [レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)] 設定は、デフォルトの 25,000 レコードではなく、15,000 レコードに制限されています。これは、レポートのサイズが大きくなるためです。

[進捗インジケータを表示するために必要な最小レコード数 (Minimum Records Needed to Display Progress Indicator)] : デフォルトでは 2,500 レコードに設定されています。このフィールドに許容される最大値は 10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求されたレポートのサイズが大きく、完了に長時間かかる可能性がある場合に警告することです。Unity Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザセッションは、レポートが生成されるまで開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズや生成しているレポートのタイプによっては、レポートの生成に時間がかかることがあります。この間は、ブラウザを使用できず、Connection Administration セッションを開いたままにしておく必要があります。

## バージョン 10.x のレポートの生成と表示

レポートを生成する場合は、次の項目の一部または全部を指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト (ユーザアカウントやコールハンドラなど)
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式は、次の中から選択できます。

<b>Web ページ</b>	HTML ファイル レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。
<b>カンマ区切りのファイル</b>	テキスト ファイル (CSV ファイルともいう)。レポート出力は、カンマで区切られたデータ スtring として表示されます。 スプレッドシート アプリケーションなどの別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。
<b>PDF ファイル</b>	レポート出力は、印刷および保存が可能な PDF として表示されます。 レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。

レポートを生成するには、システムがビジー状態でない時間帯が最適です。Unity Connection が多くのコールを処理していない通常の営業時間後、または、他のプロセスが実行中でない場合（フルバックアップの前後など）です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが（それぞれ別のブラウザから）同時に生成された場合は、レポートが順次待機し、一度に 1 つずつ処理されます。



#### 注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザに対する応答時間が長くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールできません。レポートの生成中に Unity Connection または Cisco Unified CMBE サーバをシャットダウンするか、Connection Administration のブラウザ セッションを閉じると、レポートの生成がキャンセルされます。

#### バージョン 10.x でレポートを生成して表示するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[ ツール (Tools) ] > [ レポート (Reports) ] を選択します。
- ステップ 2** [Serviceability レポート (Serviceability Reports) ] ページで、生成するレポートの名前を選択します。
- ステップ 3** レポート出力に適切なファイル形式を選択します。
- ステップ 4** フィールドが使用可能な場合は、開始時間と終了時間（年、月、日、時刻）を選択して、日付の範囲を設定します。
- ステップ 5** 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。
- ステップ 6** [ レポートの生成 (Generate Report) ] を選択します。
- ステップ 7** [ステップ 3](#) で選択したファイル形式に従って、レポート出力を表示します。

<b>Web ページ</b>	出力がブラウザ ウィンドウに表示されます。
<b>カンマ区切りのファイル</b>	ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するかが尋ねられます。
<b>PDF ファイル</b>	ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するかが尋ねられます。







## バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのボイス ネットワーク マップ ツールの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールについて」 (P.7-1)
- 「バージョン 10.x での Unity Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定」 (P.7-2)
- 「バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示」 (P.7-3)

### バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールについて

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すれば、Cisco Unity Connection サイト内のロケーションの状態を 1 か所で確認できます（このツールでは、サイト間ゲートウェイとして機能しているサイト内のロケーションを特定することもできますが、その他のサイトの状態は表示できません）。

このツールを使用すれば、サイト内のレプリケーション問題をすばやく特定したり、サイト内の任意の 2 つのロケーション間でレプリケーションのステータスに関する情報を入手したりできます。

このツールには、サイト表示、データ表示、およびサイト表示内のアイコンの意味を説明する鍵が含まれています。

サイト表示には、Unity Connection サイト内のロケーションごとのアイコンが表示されます。アイコン自体がロケーションの健全性のインジケータになっています（特定のロケーションからデータが収集できないことを示す場合もあります）。

データ表示には、サイト表示で選択されたロケーションのペアに関する情報が表示されます。この情報には、現在、あるロケーションでディレクトリ情報が別のロケーションと一緒にプルまたはプッシュされているかどうかと、あるロケーションでやり取りされるレプリケーション メッセージの USN、つまり、シーケンス番号に関する情報が含まれています（2 つのロケーションが同期している場合は、レプリケーション更新を送信しているロケーションの [最後に送信された USN (Last USN Sent)] と [最後に応答確認された USN (Last USN Acknowledged)] の値が、更新を受信しているロケーションの [最後に受信された USN (Last USN Received)] の値と一致します。レプリケーション中は、[最後に応答確認された USN (Last USN Acknowledged)] の値が [最後に送信された USN (Last USN Sent)] の値より低いのが普通です。Cisco Unity Connection Administration でも、プッシュ/プル状態や USN 情報を検索できますが、ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すれば、1 か所ですべてを確認できるため、情報へのアクセスが容易になります。

サイト表示内のアイコンに関する詳細情報については、鍵を使用します。ポインタを鍵の中のアイコンに移動すると、それに関する情報が表示されます。[ 詳細 (More) ] リンクを選択すると、その他のアイコンを表示できます。



ヒント

オプションで、ロケーションアイコンを右クリックすると、そのロケーションの Cisco Unity Connection Serviceability または Cisco Unity Connection Administration にアクセスできます。ロケーションがサイト間リンクへのゲートウェイの場合は、リモート サイト内のサーバのマップを表示することもできます。

## バージョン 10.x での Unity Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定

ボイス ネットワーク マップ ツールで、Cisco Unity Connection サイト内の他のロケーションから必要なデータを収集するには、このツールを使用するロケーションに、サイト内の他のロケーションに関するサインイン情報が保存されている必要があります。サインイン情報はサイト内のロケーション間でレプリケートされないため、サイト内の複数のロケーションでボイス ネットワーク マップ ツールを使用する場合は、ツールを使用するロケーションごとに、この項の手順を実行する必要があります。



(注)

サインイン情報は、Connection Administration の [一括編集 (Bulk Edit) ] モードでネットワーク全体のオブジェクトを編集する場合にも使用されます。サインイン情報を変更すると、一括編集モードへのアクセスにも影響します。

### バージョン 10.x で Unity Connection サイト内の他の Cisco Unity Connection 場所へのリモート アクセスを設定するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ ネットワーク (Networking) ] を展開してから、[ Unity Connection ロケーション パスワード (Location Passwords) ] を選択します。
- ステップ 2** [ エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Passwords) ] ページで、リストから Unity Connection ロケーションのいずれかを選択します。
- ステップ 3** [ エイリアス (Alias) ] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントは、システム管理者ロールを持っている必要があります。
- ステップ 4** [ パスワード (Password) ] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [ 新規追加 (Add New) ] を選択します。
- ステップ 6** [ 保存 (Save) ] を選択します。



ヒント

リモート アクセスは、必要などきのみ設定することもできます。リモート アクセスが不要になったら、[ エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Password) ] ページで該当するアカウントの横にあるチェックボックスをオンにして、[ 選択項目の削除 (Delete Selected) ] を選択することによって、サインイン情報を削除できます。

- ステップ 7** 必要に応じて、**ステップ 2**～**ステップ 6** を繰り返して、Unity Connection サイト内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定します。

## バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用するには、Cisco Unity Connection サイト内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定して、ツールで必要なデータを収集できるようにする必要があります。「バージョン 10.x での Unity Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定」(P.7-2) を参照してください。

バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでレプリケーション ステータス情報を表示するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability の [ ツール (Tools) ] メニューで、[ ボイス ネットワーク マップ (Voice Network Map) ] を選択します。
- ステップ 2** [ ボイス ネットワーク マップ (Voice Network Map) ] ページで、レプリケーション ステータス情報を表示する最初のロケーションを選択します。
- ステップ 3** **ステップ 2** で選択したロケーションと別のロケーションの間で送信、受信、または確認応答された USN メッセージに関するレプリケーション状態とデータを表示するには、2 つ目のロケーションにポインタを移動します。



**ヒント** ポインタを新しいロケーションに移動することによって、2 つ目のロケーションをすばやく変更できます。または、情報表示をロケーションのペアに「ロック」するには、Control キーを押しながら 2 つ目のロケーションを選択します。ロックを解除するには、Control キーを押しながら、2 つ目のロケーションを選択する操作を繰り返します。

- ステップ 4** 最初のロケーションを変更するには、新しいロケーションを選択してから、**ステップ 3** を繰り返します。
- ステップ 5** 指定した更新インターバルに基づいて、ツールの表示情報が定期的に更新されます。更新インターバルを変更するには
- [ 設定 (Config) ] タブを選択します。
  - [ アップデート間隔 (Update Interval) ] フィールドに、表示情報の更新頻度に関する値を入力します。最小値は 15 秒で、デフォルト値は 30 秒です。Tomcat サービスが再起動されるたびに、インターバルがデフォルト値にリセットされます。
  - [ 保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 6** 定期更新を一旦停止して、現在のデータを表示し続けるには、[ 一時停止 (Pause) ] タブを選択します。タブのラベルが [ 開始 (Resume) ] に変化します。ツールの定期更新を再開させる場合に選択します。
- ステップ 7** 次の更新インターバルを待たずにレプリケーション情報を即時更新するには、[ 更新 (Update) ] タブを選択します。

■ バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示





# HTTPS ネットワーキング 10.x のボイス ネットワーク マップ ツール の使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのボイス ネットワーク マップ ツール の使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツール の理解」 (P.8-1)
- 「HTTPS ネットワーク上の他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定」 (P.8-2)
- 「バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツール でのレプリケーション ステータス情報の表示」 (P.8-3)

## HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツール の理解

ボイス ネットワーク マップ ツール を使用すれば、HTTPS Cisco Unity Connection ネットワーク内のロケーションの健全性を 1 か所で確認できます。

このツールを使用すれば、ネットワーク内のレプリケーション問題をすばやく特定したり、ネットワーク内の任意の 2 つ以上のロケーション間でレプリケーションのステータスに関する情報を入手したりできます。

このツールには、ネットワーク表示、データ表示、およびネットワーク表示内のアイコンの意味を説明する鍵が含まれています。

ネットワーク表示には、HTTPS ネットワーク内のロケーションごとのアイコンが表示されます。アイコン自体がロケーションの健全性のインジケータになっています (特定のロケーションからデータが収集できないことを示す場合もあります)。たとえば、特定のロケーションのパスワードが設定されていない場合、ネットワーク表示でそのロケーションの上にマウスのカーソルを置くと、対応するメッセージが表示されます。

データ表示には、ネットワーク表示で選択されたロケーションのペアに関する情報が表示されます。この情報には、ホストアドレス、表示名、最終同期時間、レプリケーション セット、最大 USN、最後の USN およびネットワーク内の 2 つのロケーション間の SYNC MODE が含まれます。ディレクトリ同期に関連するフィールドの詳細については、『*Interface Reference Guide for Cisco Unity Connection Administration*』 (リリース 10.x) の「**Edit HTTPS Links**」セクションを参照してください。このドキュメントは

[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/10x/gui\\_reference/guide/10xcucgrg080.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/gui_reference/guide/10xcucgrg080.html) から入手できます。

ネットワーク表示内のアイコンに関する詳細情報については、鍵を使用します。ポインタを鍵の中のアイコンに移動すると、それに関する情報が表示されます。[詳細 (More)] リンクを選択すると、その他のアイコンを表示できます。



ヒント

オプションで、ロケーションアイコンを右クリックすると、そのロケーションの Cisco Unity Connection Serviceability または Cisco Unity Connection Administration にアクセスできます。

## HTTPS ネットワーク上の他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定

ボイス ネットワーク マップ ツールで、HTTPS ネットワーク内の他のロケーションから必要なデータを収集するには、このツールを使用するロケーションに、HTTPS ネットワーク内の他のロケーションに関するサインイン情報が保存されている必要があります。サインイン情報はネットワーク内のロケーション間でレプリケートされないため、サイト内の複数のロケーションでボイス ネットワーク マップ ツールを使用する場合は、ツールを使用するロケーションごとに、この項の手順を実行する必要があります。



(注)

サインイン情報は、Connection Administration の [一括編集 (Bulk Edit)] モードでネットワーク全体のオブジェクトを編集する場合にも使用されます。サインイン情報を変更すると、一括編集モードへのアクセスにも影響します。

### HTTPS ネットワーク上の他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスを設定する方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ネットワーク (Networking)] を展開してから、[Unity Connection ロケーション パスワード (Location Passwords)] を選択します。
- ステップ 2** [エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Passwords)] ページで、リストから Unity Connection ロケーションのいずれかを選択します。
- ステップ 3** [エイリアス (Alias)] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントは、システム管理者ロールを持っている必要があります。
- ステップ 4** [パスワード (Password)] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 6** [保存されたエンタープライズ管理パスワード (Stored Enterprise Administration Passwords)] では、リモート アクセスを設定する Unity Connection ロケーションに対応するチェックボックスをチェックします。
- ステップ 7** [保存 (Save)] を選択します。



ヒント

リモート アクセスは、必要などきにのみ設定することもできます。リモート アクセスが不要になったら、[エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Password)] ページで該当するアカウントの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択することによって、サインイン情報を削除できます。

- ステップ 8** 必要に応じて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返して、HTTP(S) ネットワーク内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定します。

## バージョン 10.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用するには、HTTPS ネットワーク内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定して、ツールで必要なデータを収集できるようにする必要があります。[「HTTPS ネットワーク上の他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定」\(P.8-2\)](#) を参照してください。

### HTTPS ネットワーク内のボイス ネットワーク マップ ツールでレプリケーション ステータス情報を表示する方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability の [ ツール (Tools) ] メニューで、[ ボイス ネットワーク マップ (Voice Network Map) ] を選択します。
- ステップ 2** [ ボイス ネットワーク マップ (Voice Network Map) ] ページで、レプリケーション情報を表示する最初のロケーションを選択します。
- ステップ 3** レプリケーション セットおよび [ステップ 2](#) および他のロケーションで選択したリモート ロケーションに関連付けられた最後の USN などのレプリケーション情報を表示するには、2 番目のロケーションにポインタを移動します。



(注)

- また、VNMAP ツールを使用して、直接または間接的に接続されたロケーションを HTTP(S) ネットワーク内の参照ロケーションに関連して表示することができます。
- ロケーションを選択せずにネットワーク表示内の任意のロケーション上にポインタを置くと、以下の情報がデータ表示セクションに表示されます。
  - ホスト アドレス (Host Address)
  - 表示名 (Display Name)
  - リトライ キューのサイズ (Retry Queue Size)



**ヒント** ポインタを新しいロケーションに移動することによって、2 つ目のロケーションをすばやく変更できます。または、情報表示をロケーションのペアに「ロック」するには、Control キーを押しながら 2 つ目のロケーションを選択します。ロックを解除するには、Control キーを押しながら、2 つ目のロケーションを選択する操作を繰り返します。

- ステップ 4** 最初のロケーションを変更するには、新しいロケーションを選択してから、[ステップ 3](#) を繰り返します。
- ステップ 5** 指定した更新インターバルに基づいて、ツールの表示情報が定期的に更新されます。更新インターバルを変更するには
- a. [ 設定 (Config) ] タブを選択します。

b. [アップデート間隔 (Update Interval)] フィールドに、表示情報の更新頻度に関する値を入力します。最小値は 15 秒で、デフォルト値は 30 秒です。Tomcat サービスが再起動されるたびに、インターバルがデフォルト値にリセットされます。

c. [保存 (Save)] を選択します。

**ステップ 6** 定期更新を一旦停止して、現在のデータを表示し続けるには、[一時停止 (Pause)] タブを選択します。タブのラベルが [開始 (Resume)] に変化します。ツールの定期更新を再開させる場合に選択します。

**ステップ 7** 次の更新インターバルを待たずにレプリケーション情報を即時更新するには、[更新 (Update)] タブを選択します。

---



---

## C

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool。「RTMT」を参照

Cisco Unity Connection Serviceability の機能 [1-1](#)

---

## F

Firefox、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

---

## I

Internet Explorer、管理者ワークステーションでの設定 [1-3](#)

---

## R

RTMT、アラームを収集および表示するための使用 [2-1](#)

---

## S

SpeechView アクティビティ要約レポート、説明 [6-4](#)

SQL データベース、アラーム定義の検索 [2-1](#)

---

## あ

アクセス

Cisco Unity Connection Serviceability [1-4](#)

ヘルプ [1-4](#)

アラーム

概要 [2-1](#)

重大度 [2-2](#)

設定 [2-2](#)

データベースでの定義の検索 [2-1](#)

定義 [2-1](#)

定義の表示 [2-2](#)

有効化 [2-2](#)

---

## い

インターフェイス、使用 [1-4](#)

---

## か

概要

Cisco Unity Connection Serviceability [1-1](#)

ボイス ネットワーク マップ ツール [7-1, 8-1](#)

管理

Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバ ステータス [4-1](#)

Cisco Unity Connection クラスタ内のポート [4-1](#)

管理者ワークステーション、ブラウザの設定 [1-2](#)

---

## き

機能サービス

起動、停止、再起動、およびリフレッシュ [5-4](#)

リスト [5-1](#)

---

## け

検索、バージョンの [1-4](#)

---

## こ

コール ハンドラ トラフィック レポート、説明 [6-4](#)

---

 コントロールセンター

- サービスのリスト [5-1](#)
- サービスを管理するための使用 [5-4](#)

---

 さ

 サーバステータス、Cisco Unity Connection クラスタ内の管理 [4-1](#)

## サービス

- アクティブ化 [5-4](#)
- 開始 [5-4](#)
- 停止 [5-4](#)
- 非アクティブ化 [5-4](#)
- リスト [5-1](#)
- リフレッシュ [5-4](#)
- サービスのアクティブ化 [5-4](#)
- サービスの起動 [5-4](#)
- サービスの停止 [5-4](#)
- サービスの非アクティブ化 [5-4](#)
- サービスのリフレッシュ [5-4](#)

---

 し

- システム設定レポート、説明 [6-4](#)
- 使用、インターフェイスの [1-4](#)
- 診断トレース、概要 [3-1](#)

---

 せ

## 設定

- Connection サイト内の他の Connection ロケーションへのリモートアクセス、ボイス ネットワーク マップ ツール [7-2, 8-2](#)
- 管理者ワークステーション上のブラウザ [1-2](#)

---

 た

- ダイヤル検索範囲レポート、説明 [6-2](#)
- ダイヤル プラン レポート、説明 [6-2](#)

---

 て

- データベース、アラーム定義の検索 [2-1](#)
- 転送コール課金レポート、説明 [6-3](#)
- 電話インターフェイスのログイン失敗レポート (Phone Interface Failed Logon Report)、説明 [6-1](#)

---

 と

- 同報リスト レポート、説明 [6-3](#)
- トレース
  - 概要 [3-1](#)
  - マイクロ、有効化 [3-2](#)
  - マイクロ、リスト [3-3](#)
  - マクロ、有効化 [3-10](#)
  - マクロ、リスト [3-11](#)
  - ログ ファイルの設定 [3-2](#)

---

 は

- バージョン、検索 [1-4](#)
- 発信課金詳細レポート、説明 [6-4](#)
- 発信課金要約レポート、説明 [6-4](#)
- パラメータ、レポートの設定 [6-5](#)

---

 ひ

## 表示

- ボイス ネットワーク マップ ツール内のレプリケーション ステータス情報 [7-3, 8-3](#)
- レポート [6-5](#)

---

 ふ

- ブラウザ、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

---

 へ

- ヘルプ

アクセス [1-4](#)

---

## ほ

ポート、Cisco Unity Connection クラスタ内の管理 [4-1](#)

ポート アクティビティ レポート、説明 [6-2](#)

ボイス ネットワーク マップ ツール

Connection サイト内の他の Connection ロケーション  
へのリモート アクセスの設定 [7-2, 8-2](#)

概要 [7-1, 8-1](#)

レプリケーション ステータス情報の表示 [7-3, 8-3](#)

---

## ま

マイクロ トレース

有効化 [3-2](#)

リスト [3-3](#)

マクロ トレース

有効化 [3-10](#)

リスト [3-11](#)

---

## み

未使用ボイスメール アカウント レポート、説明 [6-3](#)

---

## め

メールボックス ストア レポート、説明 [6-2](#)

メッセージ トラフィック レポート、説明 [6-2](#)

---

## ゆ

ユーザ電話ログインおよび NMI レポート (User Phone  
Login and MWI Report)、説明 [6-3](#)

ユーザ別 SpeechView アクティビティ レポート、説  
明 [6-4](#)

ユーザ メッセージ アクティビティ レポート、説明 [6-3](#)

ユーザ レポート、説明 [6-1](#)

ユーザ ロックアウト レポート、説明 [6-3](#)

---

## れ

レポート

生成 [6-5](#)

設定パラメータの設定 [6-5](#)

説明 [6-1](#)

表示 [6-5](#)

レポート設定パラメータの設定 [6-5](#)

レポートの生成 [6-5](#)

---

## ろ

ログ ファイル、トレース用の設定 [3-2](#)





©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は 2008 年 10 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先:シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>